



TITLE:

<レファレンス事例集>事例No.109:  
機関リポジトリで公開できる学位  
論文は，出版社版か著者版か  
：Elsevier社の場合

AUTHOR(S):

宮田, 怜

---

CITATION:

宮田, 怜. <レファレンス事例集>事例No.109: 機関リポジトリで公開できる学位論文は，出版社版か著者版か：Elsevier社の場合. 医学図書館 2017, 64(4): 246-247

ISSUE DATE:

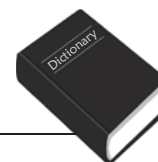
2017-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/229131>

RIGHT:

© 2017 日本医学図書館協会; 許諾条件により本文は2018-03-21に公開.; 許諾条件により非表示の部分があります.



## レファレンス事例集

### 事例 NO.109

#### 機関リポジトリで公開できる学位論文は、出版社版か著者版か：Elsevier 社の場合

##### ・質問

現在学位申請の手続きを行っており、学位申請論文は Elsevier 社のジャーナル “Osteoarthritis and Cartilage”<sup>1)</sup> で受理済の原著論文である。Web サイトを調査したところ機関リポジトリに公開できるのは著者版しか認められていないようであった。しかし、ジャーナルの担当者からは Email で出版社版を機関リポジトリへ掲載してよいという内容の連絡があった。どちらの版を掲載できるのか。  
[大学院生，口頭，2016 年 9 月]

##### ・調査の経緯

質問を受けた段階では掲載された雑誌の出版社名が明確ではなかった。まず裏付けを取るため、質問者が調査した Web サイト「SHERPA/RoMEO」<sup>2)</sup> をカウンター端末で確認した。結果、質問者が調査したとおり，“Osteoarthritis and Cartilage” は出版社版のアーカイブは不可 “author cannot archive publisher’s version/PDF” という記載があった。ここで SHERPA/RoMEO のその他のジャーナル情報を確認したところ、出版社が Elsevier 社であることがわかった。

Elsevier 社は、例外的に学位論文については出版社版での機関リポジトリのアーカイブを認めていることに対応者が思い至り、その旨を説明した京都大学図書館機構 Web サイトの文書を案内した（Elsevier 社が 2015 年

4 月に英文で発表した機関リポジトリ掲載に関するポリシー<sup>3)</sup>に基づく学内者限定資料）。

また「SHERPA/RoMEO」ではエンバーゴについて幅のある記載であったため、Elsevier 社 Web サイトで特定タイトルのエンバーゴを検索できるページ<sup>4)</sup>で調査したところ、質問者の学位論文が受理された “Osteoarthritis and Cartilage” のエンバーゴは 12 ヶ月ということであった。

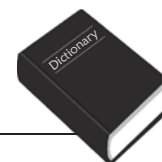
##### ・回答

上記の調査結果をもとに、出版社版がアーカイブ可能であること、公表可能日は受理日から 1 年後であることを回答した。なお学位規定により公表する版は学位審査対象となった版と同一でなければならない点（学位審査に著者版を提出した場合は、出版社版がアーカイブ可能であっても著者版をアーカイブしなければならない）も申し添えたが、この点について質問者は了解済みのようであった。

##### ・補足

2013 年 4 月の学位規則改正により博士学位論文のインターネット公表が義務化され、多くの大学では機関リポジトリにアーカイブすることでインターネット公表が実施されている。

医学分野では公刊された学術雑誌に掲載された査読論文を博士学位論文とすることが広く行われているため、機関



## レファレンス事例集

リポジトリへのアーカイブに際して出版社の著作権ポリシーに則り、適切な版の提出と公表可能日の確認が必要である。

著作権ポリシーの調査は煩雑なケースがしばしばあるが、契約に際して個別事情が存在すること多いため、こうした調査を学位申請者本人に強いているというのが本学の状況である。

教務担当から案内する学位申請手続の手引きの中で「SHERPA/RoMEO」のようなWebサイトを紹介する、本部の附属図書館の機関リポジトリ担当部署や私たち部局の図書館スタッフが相談窓口になるなど、サポート体制を整えているものの、十分に学位申請者の負担を軽減できているとは言いがたい。

今回の事例で紹介したElsevier社のポリシーのように有益な情報を積極的に提供しつつ、学位申請者の著作権ポリシー調査に関する負担を少しでも軽減できるように、教務担当や機関リポジトリ担当者と相談しながら、より一層効果的なサポート体制を整えていく必要があると考える。

### ・ポイント

学位申請者の時間を節約せよ。

### ・情報源

- 1) Osteoarthritis and Cartilage[internet]. <https://www.journals.elsevier.com/osteoarthritis-and-cartilage> [accessed 2017-08-31]
- 2) SHERPA/RoMEO[internet]. <http://www.sherpa.ac.uk/romeo/> [accessed 2017-08-31]
- 3) Elsevier. Published Journal Articles. Article Sharing [internet]. <https://www.elsevier.com/about/our-business/policies/sharing> [accessed 2017-08-31]
- 4) Elsevier. Journal Embargo Finder[internet]. <https://www.elsevier.com/about/open-science/open-access/journal-embargo-finder> [accessed 2017-08-31]

(京都大学医学図書館 宮田 怜  
medlib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)